

# ため池住民とともに

兵庫大学の  
池本教授ら 環境保全大切さ訴え

加古川市内で最大のため池、寺田池(平岡町新在家)について学ぶ  
催し「寺田池発表会」が、18日、隣接する兵庫大学で開かれた。市民  
ら約150人が参加。ため池を研究し続け、今月で同大経済情報学部  
を退任する池本廣希教授(70)が、池と人々の関わりを振り返り、環境  
保全の大切さを訴えた。

(小森有喜)

## 加古川で寺田池発表会

治水や水質改善、里海連携など

ため池の環境保全について  
話す(左から)池本廣希教  
授、岩田健三郎さん、赤松輝  
雄会長=兵庫大学



東播磨県民局が加古川や  
高砂などで取り組む「ため  
池博覧会」の一環。同池周  
辺の市民らがつくる「寺田  
池協議会」が主催した。

池本教授は約20年にわた  
り、ため池と地域のつなが  
りを研究してきた。この日  
は、寺田池で行われてきた  
治水工事を紹介。大正時代、  
雨で池の水があふれる被害  
が頻発したため、近くに深  
さ約100㍍の井戸を掘  
り、水を逃がすようにした  
という。井戸は「寺田マン  
ボ」と名付けられ、今も住  
民らに親しまれている。

また2010年には同池  
でアオコが大量発生。水質  
改善のため、住民と県立農  
業高校の生徒らが協力し、

水質を改善させた。

一方で、栄養が豊富なた  
め池の水を海に流し、漁業  
に貢献する「里海連携」の  
取り組みにも触れた。連携  
は数年前から増え、現在は  
東播磨地域の約60カ所で実施  
されているという。

池本教授は「寺田池は地  
域と密接に結びつき、住民  
の手で守られてきた」と締  
めくくった。

続いて、東播磨地域のた  
め池を描く版画家岩田健三  
郎さん(70)と、同協議会の  
赤松輝雄会長(72)を交えた  
パネルディスカッションが

あった。岩田さんは「寺田  
池は季節によつてさまざま  
な表情を見せてくれるの  
で、描くのが楽しい」と話  
した。会場では、岩田さん  
が描いた池のスケッチも展  
示された。

近くの主婦丸山節子さん  
は「遊歩道が設置されるな  
ど、より親しみやすい池に  
なつたのは住民の努力のた  
まもの。次の世代にも、憩い  
の場としてのため池を受け  
継いでいきたい」と話した。